

令和6年2月15日 開会

令和6年 第1回 東松島市議会定例会

議員一般質問通告書

東松島市議会

《 議員一般質問 目次 》

順位	氏名	件名	頁
第1位	齋藤 徹	1 消防団の改善を求める	1
		2 横断歩道上の交通事故防止対策を	2
		3 定川、赤井堀に架かる橋梁の整備について	3
第2位	千葉 修一	1 道の駅について伺う	4
		2 民生委員・児童委員について伺う	5
		3 児童生徒の推移について伺う	6
第3位	石森 晃寿	1 道の駅について	7
		2 過疎対策について	8
		3 観光客のニーズに合った宿泊施設等の確保について	9
第4位	五野井敏夫	1 地震災害における消火活動は万全か	10
		2 既存市道の整備と歩道の設置はいかに	11
		3 スポーツ施設を活用し街の活性化を目指せ	12
第5位	熊谷 昌崇	1 行政サービスについて	13
第6位	浅野 直美	1 子育て政策について	14
		2 脱炭素先行地域として環境課題への取り組み強化を	15
		3 市民の安心安全を守る交通安全対策について	16
		4 学校給食費無償化に向けた取組について	17

順位	氏名	件名	頁
第7位	井出 方明	1 観光推進施策について問う	18
		2 防災計画等について問う	19
第8位	阿部 秀太	1 食糧安全保障の観点から農業を問う	20
		2 道の駅について問う	21
第9位	小野 幸男	1 人口減少・少子高齢化対策について	22
		2 教育の更なる発展について	23
第10位	大橋 博之	1 女性活躍社会を推進せよ	24
		2 薪ストーブ設置に助成を	25
第11位	手代木せつ子	1 今後のスポーツ振興について	26
		2 子育て支援対策について	27
		3 牛網から根古地区に抜ける避難道路の整備について	28
第12位	長谷川 博	1 原発避難、能登半島地震を踏まえた対応を	29

【質問者数 12人 質問件数 29件】

氏名	件名	要旨
<p>第1位</p> <p>齋藤 徹</p>	<p>1. 消防団の改善を求める</p>	<p>消防団の環境整備について議員一般質問で様々な提言をしてきたが、改善されたものもあれば、団員に対して報告がないものも多く感じる。他自治体においては、過去に操法大会前に出場予定選手の自殺や団員による着服事件等が発生している現状から、事故や事件を未然に防ぐ上でも本市において消防団のあり方を見直す必要性を感じており、以下について伺う。</p> <p>(1) 全団員を対象としたアンケートはどのような結果となったのか関心を持っている団員もいる。結果の公表とどのような課題があり、どのように改善するのかを示すべきと考えるが如何に。</p> <p>(2) 団員の負担を感じる行事として操法大会などの動作の優劣をつけるものがあるが、現代の就業スタイルや家庭環境に合わない形で存在する行事等を消防署と連携するなど、違う形で行う考えはないか。</p> <p>(3) 分団と部の再編が行われることは聞き及んでいるが、これを機会として活動実績のない団員の精査をすべきと考えるが如何か。</p> <p>(4) 入団以来、団員として自分の年額報酬を手元で見たことがない、部によって対応は様々であると思うが、市として個人払いを徹底すべきと思うが如何に。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第1位</p> <p>齋藤 徹</p>	<p>2. 横断歩道上の交通事故防止対策を</p>	<p>去る1月31日午後6時頃に石巻西高校前の横断歩道上で女子生徒が自動車と接触する事故が起きた。</p> <p>消防団員がパトロール中に事故に遭遇し、消防署員が来るまでの間交通整理を行った。現場の状況は横断歩道の視認は可能だが、季節柄、暗色系のコートを着用していた生徒の視認は運転中の瞬時の状況判断で見落としてしまったであろうことは容易に想像できた。</p> <p>学校の目の前で起きた事故に対して生徒や保護者に与えた心理的なストレスは計り知れない。今後、このような事故が起こらないよう、教育関係施設や歩行者往来の多い商業施設近辺の横断歩道を照らす街灯の設置を優先的に進めるべきと考えるが如何か。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第1位</p> <p>齋藤 徹</p>	<p>3. 定川、赤井掘に架かる橋梁の整備について</p>	<p>都市計画道路矢本蛇田線（市道小松・赤井線）について、毎年宮城県東部土木事務所長宛に要望書を提出しているが県道昇格の目処がつかない。</p> <p>三陸自動車道の矢本河南インターから石巻市の蛇田まで続くこの路線は、市民の生活を支える本市にとって重要な道路であり、路線に存在する橋は荷重制限が14トンとなっていることから、大型車両は迂回せざるを得ない現状にある。</p> <p>東日本大震災時の物資緊急輸送路として機能した実績や商業施設の開業に伴う輸送環境の整備等を考えるとき、この2つの橋梁の荷重制限の撤廃に向けた整備は市として重要な課題となってくる。市長の見解を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第2位</p> <p>千葉 修一</p>	<p>1. 道の駅について伺う</p>	<p>道の駅は、11月開業予定と新聞等で取り上げられ、市民の方々からも期待の声が聞こえる。そこで道の駅運営計画について伺う。</p> <p>(1) 売上計画や運営計画はどのように考えているか。</p> <p>(2) 2階のフードコートの営業形態はどのようにするのか。</p> <p>(3) 1階フロアで、地場果物や野菜をスイーツにして販売してはどうか。</p> <p>(4) 情報発信はどのように行うのか。</p> <p>(5) ブルーインパルスの展示計画は進んでいるのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第2位</p> <p>千葉 修一</p>	<p>2. 民生委員・児童委員について伺う</p>	<p>民生委員・児童委員は、地域住民の一員として担当地域において、住民の生活上の様々な相談に応じ、行政をはじめ適切な支援サービスへのつなぎ役としての役割を果たしているなか、高齢化や欠員がある地域があるが今後の対策について伺う。</p> <p>(1) 民生委員・児童委員は欠員状態にあるが、今後補充はどのように考えているか。</p> <p>(2) 自治会との連携はどうあるべきか。</p> <p>(3) 活動は地域の人口の差異による負担の違いが生じている。補助員を置くことや人口割等での解消が必要ではないか。</p> <p>(4) ひきこもり対策への民生委員・児童委員の現状の関りは。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要 旨
<p>第2位</p> <p>千葉 修一</p>	<p>3. 児童生徒の推移について伺う</p>	<p>本市でも少子化が進む中、学校運営及び教育課題への対応が求められる。そこで、学校統廃合や複式学級また、学区の見直しが必要と考えるが以下について伺う。</p> <p>(1) 小中学校の適正規模・適正配置をどのように考えているか。</p> <p>(2) 大塩小学校は、5年後、児童数が70人前後と想定されるが複式学級や統廃合の考えは。</p> <p>(3) 赤井南小学校は、児童数が増える傾向にあることから学区の見直しが必要と考えるが如何か。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第3位</p> <p>石森 晃寿</p>	<p>1. 道の駅について</p>	<p>私が、道の駅構想の一般質問を平成31年の第一回定例会でおこなった時、市長の回答は、三陸自動車道の矢本パークを活用した地域振興策として前向きに考えていきたいという回答であった。今回、令和6年1月19日の起工式で、市長は「観光誘客の促進のほか、地場の特産品販売で第一次産業の強化も期待できる。魅力あふれる道の駅にしたい」と話している。</p> <p>そこで、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 道の駅のオープン時期及びリハーサル期間について。</p> <p>(2) 地場の特産品又、石巻市、女川町及び友好都市・友好姉妹都市の特産品は、どのようなものを考えているか。</p> <p>(3) 2階の食堂は、大型観光バス等には時間が計算でき大変人気が出ると思うが、どのような特色を出しているのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第3位</p> <p>石森 晃寿</p>	<p>2. 過疎対策について</p>	<p>人口減少が著しい、旧鳴瀬地区が令和3年度に過疎地域に指定され、市長は、過疎地域からの脱却について、様々な人口増加対策を講じているが、一朝一夕で解決できるものではない。過疎計画を着実に実行していくことが大切であると思う。</p> <p>そこで、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 過疎指定から2年10ヶ月になるが、旧鳴瀬町の3地区毎の人口動態は、どのようになっているか。</p> <p>(2) 私がこれまで一般質問で提言している過疎債を活用した「牛網地区の防火水槽設置事業」、「上下堤地区センター駐車場整備事業」、「市道山岸線改良整備事業」、「市道上野蒜2号線改良整備事業」、「市道上野蒜・大塚線改良整備事業」「市道上福田・肘曲線、鱗・御浦線改良整備事業」、「市道田町・鯉前線改良整備事業」、「市道猪鼻・西風線、佐野下・寺前線改良整備事業」、「市道原田・萩窪線改良整備事業」の進捗状況は、どのようになっているか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第3位</p> <p>石森 晃寿</p>	<p>3. 観光客のニーズに合った宿泊施設等の確保について</p>	<p>本市は、2022年、「世界の持続可能な観光地TOP100」に宮城県内初の選出、2023年、「ベスト・ツーリズム・ビレッジ」に奥松島地域が東北地方で初めて認定されるなど、東松島市も観光地として世界中から注目されている状況だが、豊富な観光スポットをゆっくりと見学し満喫するには、観光客のニーズに合った宿泊施設の確保が必要と思われる。</p> <p>そこで、以下の点について、伺う。</p> <p>(1) 最近、宿泊ニーズの変化により高速道路のインター付近でシングルルーム、又はツインルームが主流のホテルが好まれているが、宿泊施設の誘致等は、どのように考えているか。</p> <p>(2) 人口約4万人の市として、100人から200人規模の会議や懇親会が開催できる施設が必要と考えるがいかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第4位</p> <p>五野井敏夫</p>	<p>1. 地震災害における消火活動は万全か</p>	<p>1月1日に発生した震度7の能登半島大地震による被害は甚大なものである。</p> <p>被害の全容は災害発生から一ヶ月以上経過しても完全には把握されていないようである。度重なる余震、降雪、地盤の隆起、陥没等によるライフライン損傷で復旧整備も思うように捗らず大変な状況であると報道されている。</p> <p>特に輪島市で発生した災害火災は地震による断水で消火栓からの水源が確保できなくなり、水不足により消火活動に支障をきたし火災は瞬く間に広がり手の施しようがなく多数の犠牲者を出した。未だ多数の行方不明者もいるとのことである。この災害の教訓を本市に当てはめた時、どのように対処するのか以下の点について伺う。</p> <p>(1) 発災当初の初期の消火体制の把握はいかに。</p> <p>(2) 有効水源地の確保はいかに。</p> <p>(3) 消火栓設置対応地区が多いが、防火水槽の配備を増やすべきでは。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第4位</p> <p>五野井敏夫</p>	<p>2. 既存市道の整備と歩道の設置はいかに</p>	<p>市道五味倉線は、国道45号から三陸道アンダーボックス迄は歩道と路肩側溝が整備されているが、以北については整備がなされていない。当該道路は道路幅も十分確保され西側路肩には歩道と側溝が設置できるスペースもあるよう推計できる。又、当道路の一部は路盤損傷が激しく早急の整備を必要とする箇所もある。</p> <p>その他市道の複数路線で路肩に土砂が堆積し、降雨や融雪時に水が流れにくいため一部路面冠水し、歩行者や車両等の通行に支障をきたしている。そこで以下の点について伺う。</p> <p>(1) 五味倉線の修繕整備、路肩側溝、歩道の整備は必要と思うが、いかに。</p> <p>(2) 他の市道の路肩、堆積土砂の撤去もすべきと思うがいかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第4位</p> <p>五野井敏夫</p>	<p>3. スポーツ施設を活用し街の活性化を目指せ</p>	<p>本市はスポーツ健康都市を標榜してから久しくなる。この間パークゴルフ場での各種大会の開催、鷹来の森運動公園等でのソフトボールやサッカー等の各種地域大会、全国大会、インカレ等多くの大会を誘致し、大会関係者から高い評価を受けている。今後も各種スポーツ競技の長期合宿等で、交流人口の増加と街の活性化を促進すべきと思う。今後の更なる推進のための考えを伺う。</p> <p>(1) 新設した奥松島運動公園のマレットゴルフ場の利用推進はいかにするか。</p> <p>(2) 競技で訪れた方々の宿泊は現在どう対処しているのか。</p> <p>(3) 将来において合宿所等の施設整備は考えられないか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第5位</p> <p>熊谷昌崇</p>	<p>1. 行政サービスについて</p>	<p>先日、償却資産の申告の郵便物が届いた。開封すると、提出用の用紙と案内文が入っていた。記載方法については、QRコードを読み込んで確認するという様な内容で、使い方が分からない方は連絡をくれれば、郵送するという様な内容だった。そこで感じたのは時代の流れなのかという事だった。</p> <p>昨年末に県の事業で東松島市地域ポイントの導入についても、同様に感じたが、市民からは、インストールについて戸惑う声も多く聞こえた。</p> <p>そこで感じたのは日進月歩で技術が進んでいる事、経費節減も理解するが、税金を納めてもらう立場としては、機械に弱い人々も多いことから、紙面による説明が必要と思われる。</p> <p>もし、QRコードを利用するならば、読み込めば動画で説明をするという様な補助的な説明等も行える。償却資産であれば、昨年度と資産の増減がなければ、記入する箇所は少ない等の説明を行えば、市民からすれば非常に便利と思われる。</p> <p>一方、行政サービスが向上していると感じたのは、隣の石巻市の償却資産の申告書である。昨年度と資産の増減がない場合は書類の提出を省略するという内容であった。行政サービスについては、他自治体の動向を注視し、サービス向上の為に日々努力してもらいたいと思うが如何に。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要 旨
<p>第6位</p> <p>浅野直美</p>	<p>1. 子育て政策について</p>	<p>こども家庭庁では、子育てに困難を抱える世帯がこれまで以上に顕在化してきている状況等を踏まえ、子育て世帯に対する包括的な支援の体制強化等を行うため、令和6年4月1日を期日とした児童福祉法等の一部の法改正を進めている。</p> <p>こども政策の具体的な実施を中心的に担っているのは自治体であり、今後さらに当事者目線の政策に取り組み、喫緊の課題である少子化対策及び出生率向上に努めるべきであることから、以下本市の対応について伺う。</p> <p>(1) 各自治体に設置が努力義務化される「こども家庭センター」であるが、本市では二カ所の子育て支援センターが窓口となり保護者からの相談等様々な業務に尽力している。子育てが困難な状況である世帯や深刻な悩みを抱える世帯へは、更にきめ細やかな対応が求められると思慮する。児童福祉法に定める事業のみならず、これまで以上に地域資源の開拓を図り、こども家庭センター設置に伴う国の様々な補助を活用し、孤立する家庭への支援充実等に取り組み、安心して子育てできる東松島市を強く宣言してはいかかがか。</p> <p>(2) こども家庭庁では、配偶者の出産後2ヶ月以内に半日又は1日以上のお休み（年次有給休暇、配偶者出産時に係る特別休暇、育児休業等）を取得した男性の割合を2025年には80%とすることを目標として男性の休暇取得を推進している。</p> <p>共働き世帯の割合が多い近年において、父親が積極的に育児に参加することで配偶者の心身の負担軽減を図ることが期待できることから、危機的であり深刻化する少子化対策及び出生率向上に大きく寄与するものと考えられる。父親の育児参加の理解を深めるため、県内では仙台市や石巻市において独自の父子手帳を交付しているが、本市においても父親の子育て促進事業の一つとし、独自の父子手帳交付を提案するがいかかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第6位</p> <p>浅野直美</p>	<p>2. 脱炭素先行地域として環境課題への取り組み強化を</p>	<p>本市は、環境省が定める第1回脱炭素先行地域に令和4年6月当時全国で26自治体の一つとして、東北被災3県では唯一、また宮城県では初の先行地域として選定されている。</p> <p>政府は2025年度までに100か所の地域を脱炭素先行地域とし、更なる地球温暖化対策を計画している。地球規模の環境問題は、次世代にツケをまわさないための重要課題であり、先日、環境大臣伊藤信太郎衆議院議員の講演でも、「地球沸騰」「気候危機」「近づく限界」と、如何に危機的状況であるかを示されていた。</p> <p>政府目標の実現に向けて気候変動対策を加速するため、本市が脱炭素ドミノのモデルとなり、市民の暮らしの質の向上を実現しながら先行地域としての責任を果たすべきであることから以下について伺う。</p> <p>(1) 令和4年12月第4回定例会での私の一般質問において、屋根置きなど自家消費型の太陽光発電を活用し、公共施設の省・創・再エネを図ることで、施設の維持管理経費の軽減などにつなげることで、また、令和4年12月1日に設置した東松島市地球温暖化対策推進本部を中心として全庁的に推進し、市民及び事業者とともに脱炭素先行地域にふさわしい取組を進めるとの市長答弁であった。</p> <p>現在の公共施設での設置割合を上げ、更に再エネ対策を強化すべきと考えるがいかがか。</p> <p>(2) 同じく一般質問において、市が保有するおよそ110台の公用車の走行距離や走行年数の基準を勘案したうえで、環境に配慮した公用車を段階的かつ計画的に導入し、ゼロカーボン・ドライブを市が率先実行すべきと提案している。</p> <p>国の自動車電動化推進の方針と整合を図りながら、地域温暖化対策を重視した公用車の導入を推進するとの市長答弁であったが、公用車の脱炭素を積極的に実施し、燃料費削減も含め、先行地域としての姿勢を示すべきであるが、いかがか。</p> <p>(3) 脱炭素先行地域に選定されたことは、市民の理解があつてこそそのことであり、市民が十分に恩恵を享受すべきであると考えます。太陽光パネル設置等の補助額を上げる等、市民にとっての利点を具体的に示すべきと考えますが市長の考えを伺う</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第6位</p> <p>浅野直美</p>	<p>3. 市民の安心安全を守る交通安全対策について</p>	<p>本市では、昨年12月24日交通死亡事故ゼロ半年を達成し、宮城県警原幸太郎本部長より祝詞を受けている。</p> <p>交通事故防止のため、各関係機関と連携し独自の横断幕の設置や安全大会の開催等啓発活動に努め、また、これまでも石巻警察署より交通安全マナーアップモデルの委嘱を受けるなど、本市の交通安全対策が高く評価されたものである。</p> <p>交通死亡事故ゼロ達成1年間、更に2年間3年間を目指し、継続して市民の安心安全を遵守するため、以下について伺う。</p> <p>(1) 交通量の多い一般道及び生活道路問わず、速度超過の走行車輛が多く、県道43号矢本河南線等は朝夕の通勤通学時間帯や夕暮れの薄暮時及び夜間は、非常に危険であると地域の方々からも声が届いている。</p> <p>春には、新入学児童や新たに自転車通学になる児童生徒も多くなり、また健康維持増進のために散歩をされる高齢者も多くなることから、安全性を十分に確保するために、特に学校周辺においては横断歩道の道路標示、道路標識の整備標識や路面塗装等により注意喚起及び減速を促す対策をすべきと考えるが、運転者のマナーアップ推進と市の対応について伺う。</p> <p>(2) 本市では東松島市通学路安全推進協議会の設置し、通学路の安全確保に向けた取組を行うと同時に、重大事故の未然防止に向けた取組強化とし「東松島市通学路交通安全プログラム」により交通安全と防犯の両視点から取組を推進しているが、保育施設周辺の安全確保としてキッズゾーンの整備を更に強化すべきと考えるがいかがか。</p> <p>(3) 夕方から夜間にかけて通塾する生徒が、らくらく号を利用可能であれば安全確保が望まれると思慮するが、現在平日16時30分までの受付を時間延長し、らくらく号の利便性を高めるべきと考えるが、いかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第6位</p> <p>浅野直美</p>	<p>4. 学校給食費無償化に向けた取組について</p>	<p>学校給食費無償化について、これまでの定例会において継続的に提案している。令和6年度4月からは半額とし保護者の経済的負担軽減を図ると答弁を得ているが、県内でも無償化を進める自治体が増えているなかで、本市においても「子どもは地域の宝」を具体化するための取り組みの一つとし、学校給食費無償化を早期に実現すべきであることから以下について伺う。</p> <p>(1) 2023年に文部科学省の学校給食実施状況等調査が公表された。給食費の家計負担は大きく、多子世帯ではその負担感はさらに増加する。家庭の状況によっては、給食費が家計への影響を及ぼすことで、児童生徒に必要な学びの機会を奪うことも懸念されるが、このような負担がなくなることで、学びの機会や成長に必要な費用を割り当てることが可能となることから、無償化の早期実施を引き続き提案する。</p> <p>令和6年度においては半額であるが、その後7年度に向けて、財源も含めの市長の考えを伺う。</p> <p>(2) 市長はこれまで、財源的に豊かな自治体も厳しい自治体もあり、全ての市町村が無償化を実施できるよう本来は国が支援するべきだと主張し、文部科学省等に要望している。</p> <p>今後、市長会等を通じて更に国への働きかけを行うべきと考えるが、その道筋について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第7位</p> <p>井出方明</p>	<p>1. 観光推進施策について問う</p>	<p>第2次総合計画後期基本計画の目標である地域の資源を生かした観光を進めていく中で、次の点について問う。</p> <p>(1) 観光を推進していく上で、他との差別化が必要と考える。ブルーインパルスや美しい自然及び美味しい食材も重要であるが、がれき処理の東松島方式やマンホールトイレ等を見える化して防災体験を売りにはしては如何か。</p> <p>(2) 以前も質問した松島海岸との定期航路開設の進捗はどのような状況であるか。</p> <p>(3) 「世界の持続可能な観光地TOP100」「ベスト・ツーリズム2023」の両方に選定されたのは日本で3か所だけである。このチャンスを活かし集客に結び付けていく為にはSNSを利用した発信及び、旅行会社等に対する働きかけが重要であると考えているが、市長の考えは。</p> <p>(4) 今年、道の駅を開設する上で、目玉である商品は名産の牡蠣や海苔、農作物及び農作加工品の出品が重要であると考えている。これらの商品選定及び開発は進んでいるのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第7位</p> <p>井出方明</p>	<p>2. 防災計画等について問う</p>	<p>東日本大震災から間もなく13年、元旦には能登半島地震が発生した。</p> <p>1月末から2月始めにかけて現地でボランティア活動を行ってきた時に感じた部分が多々あった。改めて我が市における防災計画等について、次の点について問う。</p> <p>(1) 災害発生時に市民全員の安全確保のためには、発災直後に各地区単位で動ける事が重要である。現在、市内における地区防災計画の策定状況はどの程度進んでいるかを把握しているのか。また、市として地区防災計画の内容及び運用に関与していく考えはあるのか。</p> <p>(2) 個別避難計画を策定すべき災害時避難行動要支援者の絞り込みを進めているようであるがどの程度進んでいるのか。また同計画の策定はいつ頃完成するのか。</p> <p>(3) 能登半島で倒壊したブロック塀をみると、鉄筋が入っていない状況が目についた。また、現地における耐震化率が低いとの報道も聞かれている。本市においては耐震化率及びブロック塀等の危険工作物の撤去は進んでいると認識しているが、人的被害を出さないために今後更に進めていくための考えはあるのか。</p> <p>(4) 本市の道路は東西方向への通行を主に設計されている。原子力災害時には東西方向の避難となるため問題はないが、津波発生時における避難方向は南北方向が主となる。信号の統制等南北方向へスムーズに避難させるために考えている事はあるのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第8位</p> <p>阿部 秀太</p>	<p>1. 食料安全保障の観点から農業を問う</p>	<p>いま、農家の声は「コメが安い」「機械が高くて買えない」「肥料も燃料も高い」である。</p> <p>集落で「農家」が集まれば、実際に基幹的農業従事者は、いつの間にか数名になっている。20年後には国内の基幹的農業従事者は、今の4分の1の30万人程度になるという。2020年農林業センサスでは、コメの基幹的農業従事者は54万人から7万人程度となると予測され、その9割が小規模・高齢のコメ農家によるものであり、同時にその方々は小麦や大豆も耕作しているため、コメ以外にも大きな影響が見られるのではと予測される。つまりは、20年後には限られた人が、限られた労力で、限られた品目しか作れないのではないかと懸念され、同時に集落が維持できるか否かも心配される場所である。</p> <p>また、労力の問題に関しては、海外からの人材をあてにしても、現在は世界的に人材不足で獲得競争が起こり、日本は給料面や言語等で不利な状況と聞く。</p> <p>以上から、将来の食料事情を憂慮するものであり、以下について伺う。</p> <p>(1) 冒頭の農家の声は裏返せば「再生産可能な価格を」「肥料・燃料の値段を下げて」「機械購入補助のハードルを下げて」ということである。食料の安全保障を前提に考えれば、生産を維持し続けるために、あるべきことと思慮するが、どのようにとらえ、どう方策を考えているのか伺う。</p> <p>(2) 生産基盤を整備し生産性・効率性を高まるべく圃場整備を進めているところであるが、その進捗状況と今後の見通しについて伺う。</p> <p>(3) 一方、圃場整備を行にくい狭隘な沢田などは、実は生物多様性に富んでいる箇所でもある。コモンズ(社会共通の資源)として、市民の理解を得ながら耕作者に何らかのインセンティブを与えられないか思慮するがいかがか。</p> <p>(4) 地域での食料安全保障の重要性は、震災での経験から強く感じるものである。市民が主食であるコメを守り、地域で“自給圏”をつくるという意味で、学校給食を含めて航空自衛隊松島基地においても「地域の食を守る取り組み」として、地元のコメを優先的に扱えるよう働きかけられたい。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第8位</p> <p>阿部秀太</p>	<p>2. 道の駅について問う</p>	<p>これまで道の駅の物販に関しては、商工業者や農業生産者に対し4回の説明会があり、農業生産者は、現在20人の部会加入希望者がいると聞く。開業まではまだ間があるものの、少ないという印象は否めず、市民へのアナウンスが足りなかったのではと危惧するところであり、以下について問う。</p> <p>(1) 道の駅の魅力をもっと、農業生産者はじめ市民に理解していただく必要があると思慮する。この道の駅の魅力をいかに考え、今後どう発信していくのか、また農業生産者会員は何名程度を目標とし、今後どう進めるのか伺う。</p> <p>(2) 補助事業上の評価指標は①交流人口の増加、②地域産物の販売額の増加、③農業体験者数の増加と聞くが、農業体験者数の増加についてどのように進めるのか伺う。</p> <p>(3) 商工会、漁協、農協、市場などの機関は、今後どのような位置づけで、どのような働きをしていくのか伺う。</p> <p>(4) 条例に謳うところの、道の駅の運営により「地域が活性化する」とはどのようなことか伺う。また、商業、漁業、農業のカテゴリーにとどまらずに、ネットワークの中心となり、商品開発等に携わる人材の存在、または育成が必要と考えるがいかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第9位</p> <p>小野 幸男</p>	<p>1. 人口減少・少子高齢化対策について</p>	<p>新しい次世代の生産人口が減少する2050年問題があり、日本が持続可能な社会を維持するための改革がもてられている。東松島市第2次総合計画に掲げる「住み続けられ持続発展する東松島」を目指すことから以下の点について伺う。</p> <p>(1) 本市の課題として、少子高齢化と人口減少があげられている。震災前からの課題ではあるものの、周辺市町村から比べて幾分緩やかであると記載されているが、現状を伺う。</p> <p>(2) 国では異次元の少子化対策を打ち出したが、なかなか厳しく現状を打開するまでには至っていない。この施策についての見解を伺う。</p> <p>(3) 国内では減少率の歯止めが効かない中、唯一人口増加を成し遂げた兵庫県明石市の少子化対策がある。日本の未来は明石市の少子化対策にありとまで言われているが、明石市の施策についての見解を伺う。</p> <p>(4) 本市においても、様々な対策に取り組まれている。生活様式の多様化が人口減少の大きな要因かと思料されるが、高齢化に向けた社会保障制度を維持する市民の負担増の対策と若者が結婚し出生率向上にむけ安心して産み育てられる更なる対策を伺う。</p> <p>(5) 世界に目を配ると、ヨーロッパやアメリカ等は、国のお家事情もあるが多民族国家を形成し人口の維持を図っている。国内においても市内においても外国人労働者が経済と減少率の一躍を担っている。人材は地方にとっても国においても必要不可欠であり、私たちの住む東松島も同様に将来を見据え、労働力不足も踏まえた移民政策の考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第9位</p> <p>小野幸男</p>	<p>2. 教育の更なる発展について</p>	<p>新年を迎えた1月19日に民生教育常任委員会で「協同的な学びの充実」の研修に参加し、授業参観を含め教育現場の今を肌で感じ勉強させていただいた。また1月23日には、市内小中学校のPTA役員の方々と学力向上と家庭学習についての議会懇談会を開催し、活発に議論されたので以下について伺う。</p> <p>(1) 今後の協同的な学びの充実の更なる取り組みと、児童生徒のメリット・デメリットがあれば伺う。</p> <p>(2) 教育には人材確保が必要不可欠である。以前にも質問している各学校の加配の先生や支援員を含めた本市独自の対応は万全か。</p> <p>(3) 今回の議会懇談会を私なりに精査し、感じたことの1つに先生方と同じくして児童生徒も多忙すぎ、家庭学習にしても疲弊感が増しているのではないかと心配される。学力向上に向けた夏休み4日間短縮は児童生徒にどうだったのかも含め再度検討すべきと痛感したが所見を伺う。</p> <p>(4) 以前から危惧されている経済格差による学力の差が顕著に表れている現実がある。家庭学習の格差是正に向けた取組も本市のSDGsの大事な取組でもある。是正に向けた取組策を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第10位</p> <p>大橋博之</p>	<p>1. 女性活躍社会を推進せよ</p>	<p>2023年10月12日(木)の新聞記事に驚いた。兵庫県小野市議会(定数16)の女性議員は43.8%(7人)を誇り全国的に注目され視察が相次ぐとのことである。多くの地方議会で議員のなり手不足、そして女性議員の数が伸び悩む中、何故にこの結果になったのかを記事の中で語っていた。以下の点について、市長の所見を伺う。</p> <p>(1) 女性リーダーを養成しようと小野市では「おのウィメンズ・チャレンジ塾」を開催している。女性の政治参画を促す取組である。本市ではどうか。</p> <p>(2) 小野市では、自治会への女性役員を増やす取組に力を入れた女性役員を登用した自治会に、年10万円から20万円を3年間支給する事業を実施した。本市での導入の可能性は。</p> <p>(3) 東松島市女性模擬議会が令和5年10月14日(土)に開催され、8人の女性が一般質問を行った。私も傍聴し大変素晴らしい質問であった。参加した皆さんの感想はどのようなものだったのか。そして今後の女性模擬議会の考えは。</p> <p>(4) 今後の本市の活性化には、女性の力が大切と考えるが、どのように政策に反映していくのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第10位</p> <p>大橋博之</p>	<p>2. 薪ストーブ設置に助成を</p>	<p>昨年ある会合で友人より、薪ストーブを導入して活用しているとの話を伺った。その時、東松島市では補助金はあるのですかと質問された。残念ながら本市ではまだ無い。環境省脱炭素先行地域に選定された本市としても、早急に補助金制度を創設してはどうか所見を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第11位</p> <p>手代木 せつ子</p>	<p>1. 今後のスポーツ振興について</p>	<p>昨年、鷹来の森運動公園において、10月28日「第1回東松島市小学生オリンピック競技会」が行われた。また、11月26日にはコロナ禍により見合わせていた「第53回東松島クロスカントリー大会」が4年ぶりに開催された。どちらも秋晴れの下、多くの参加者がそれぞれ自己ベストの記録を目指して頑張っていた。素晴らしい企画であったと思うが、次回開催に向け、以下について伺う。</p> <p>(1) 「第1回東松島市小学生オリンピック競技会」について</p> <p>① 第1回目の成果と次回開催時期を含めた課題について。</p> <p>② 開会式と閉会式の会場が異なったが、同場所にするべきではなかったのか。</p> <p>③ 800m競技も、多目的グラウンドで実施したほうが良かったのではないか。</p> <p>④ 終始、保護者等は立ったままで応援をされていたが、多目的グラウンドに観客席を設置する考えはないか。</p> <p>(2) NPO法人東松島スポーツ協会主催の「第53回東松島クロスカントリー大会」への本市の市民参加者は全体の約3分の2であったが、コロナ前と比較すると減少している。「スポーツ健康都市」を宣言していることもあり、特に市内の小中学生の参加料金に対し市の助成も含め検討してはいかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第11位</p> <p>手代木 せつ子</p>	<p>2. 子育て支援対策について</p>	<p>全国的に人口減少が問題視されているが、このことは本市においても喫緊の問題である。昨年11月1日より令和6年度保育施設申込が始まり、それぞれの保育施設での受付は終了していると伺った。そこで、以下について伺う。</p> <p>(1) 子育て支援を謳っている本市として、出産後の働く女性を支援するため、年度途中からの0歳児受入態勢の手厚い策が必要と考えるがいかがか。</p> <p>(2) 会派行政視察で根室市の子育て支援策を学んできたが、少子化対策は思い切った支援策を講じていた。市独自の子育て支援として、新生児1人につき出産祝金10万円を支給している。また、乳児が満1歳になるまで月額7,500円の乳児おむつ用品等の購入券を配布している。</p> <p>やはり、他の自治体と比べ抜きんでた、目に見える市独自の支援策を講じるべきと思うがいかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第11位</p> <p>手代木 せつ子</p>	<p>3. 牛網から根古地区に抜ける避難道路の整備について</p>	<p>1月1日に起きたM7.6の能登半島地震の被災地では、1ヶ月が過ぎた今もなおライフラインは完全に復旧しておらず、大変な避難生活を送っている。13年前の東日本大震災を彷彿とさせるものだった。</p> <p>私たちは強い地震の後には津波が来ることを学んだが、今回、地形による被害のあり様の違いにも驚いた。そして、津波発生の際に命を守る行動として、平坦地から一秒でも早く高台に向かう必要性をあらためて感じた。牛網地区は近くに避難する高い建物がないために大塩方向に早く避難する必要がある。</p> <p>そこで、将来に向けた防災避難道路として、国の補助率3分の2を活用した市道小野駅前北1号線から根古地区に抜ける避難道路の整備が必要と思うが、市長の見解を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第12位</p> <p>長 谷 川 博</p>	<p>1. 原発避難、能登半島地震を踏まえた対応を</p>	<p>元旦に発生した能登半島地震は道路の寸断により避難先への移動が不可能になることが明らかになった。また、避難帯域時検査等場所への移動もしかりである。さらに、家屋の倒壊により家屋への一時的な避難（屋内退避）も困難となることが証明された。</p> <p>そこで何うが、能登半島地震の現状と照らし合わせて、女川原発災害時における「広域避難計画」の実効性についてどの様に考えるか。</p> <p>また、地震・津波など自然災害によって原発事故が起きた場合に備え、能登半島地震の知見を避難計画に反映させる抜本的見直しを行って頂くよう提言する。</p> <p>いざという時に約3万8千人の市民の命と安全を守る避難計画でなければ、女川原発の再稼働は認められないと考えるが、市長の見解を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>